

IV-2 東北

訪日外国人は引き続き増加傾向も県によって差異
東北六魂祭がフィナーレ、東北絆まつりへ
官民を問わずインバウンド強化の取組みが加速

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、16年1～12月の東北地方の延べ宿泊者数は4,006万人泊となり、前年比6.6%の減少となった(図IV-2-1)。11年3月の東日本大震災以降、総数では順調に対前年比で増加を続けてきたが、一転して大きく前年を下回り11年の水準も下回った。

県別にみると、岩手県が1.4%増、青森県が0.0%、秋田県が1.7%減、山形県が8.9%減、宮城県が9.8%減、福島県が11.1%減となり、南東北地域の減少が目立った。16年3月の北海道新幹線開通の影響で旅行者が北海道に流れたことや、13～15年にかけて南東北で実施されたデスティネーション・キャンペーンの反動などが考えられる。東北6県は、いずれも東日本大震災前の10年を上回り復興の兆しがあるが、伸び率トップの岩手県が対10年比146.5%に対し、秋田県は同108.6%と伸び率に差が生じている。

外国人宿泊者数は、前年比19.3%増の72.6万人泊となり過去最高を更新した(図IV-2-2)。東日本大震災前の10年をはじめ

て上回った15年度は、前年比で平均51.2%という記録的な伸び率だった。16年度は平均19.3%とやや落ち着いたものの、依然として高い伸び率を維持した。

県別にみると、福島県が39.8%増、青森県が34.6%増、岩手県が24.2%増、山形県が16.5%増、秋田県が12.0%増、宮城県が4.6%増となった。福島県は、東北6県で最も高い伸び率だが、未だ東日本大震災前の対10年比90.6%に留まっており、震災前の水準に達していない。秋田県は、同104.6%となり、はじめて東日本大震災前を上回った。青森県は、東日本大震災以降の伸び率が最も高く(同271.5%)、総数も約16万人泊となり、宮城県の約20万人泊に比肩しつつある。

(2) 観光地の主要な動き

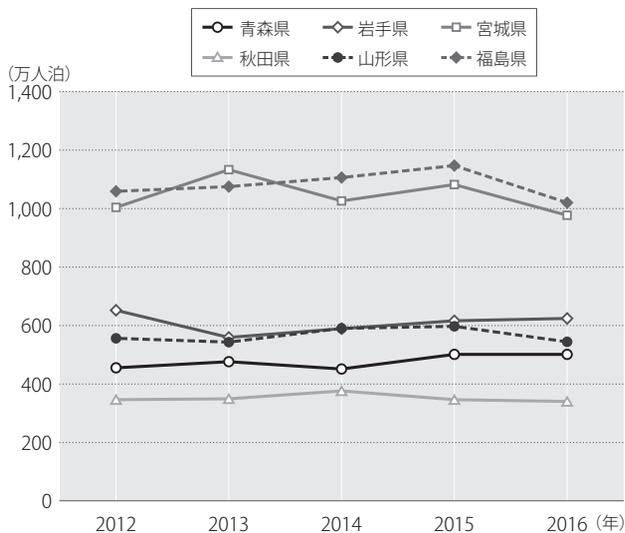
① 地方・都道府県レベル

● 東北のまつり

○ 東北の夏まつり

東北地方の代表的な観光シーズンとなっている夏まつりは、8月1～8日にそれぞれ2～6日間の会期で開催された。いずれの夏まつりも概ね天候に恵まれ、東日本大震災以降最多の入込数であった15年度の890万人とほぼ同規模の888万人(前年比99.8%)が来場した(表IV-2-1)。

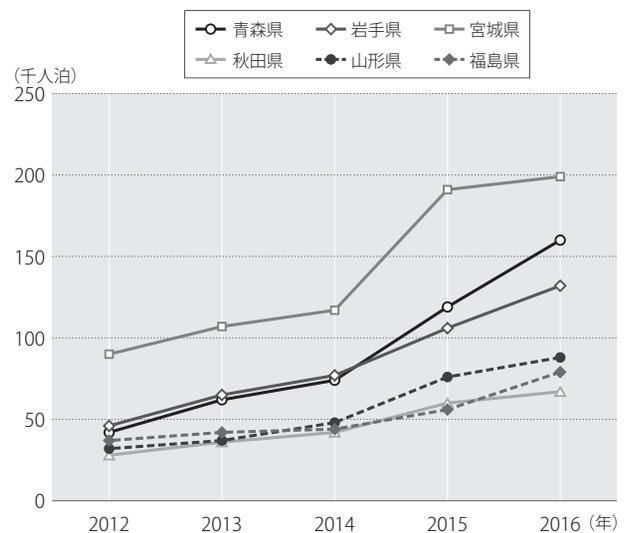
図IV-2-1 延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	455	476	451	501	501
岩手県	652	559	589	616	624
宮城県	1,004	1,133	1,026	1,082	977
秋田県	346	349	376	346	340
山形県	556	543	590	597	544
福島県	1,059	1,075	1,106	1,147	1,020

※～10.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位: 万人泊
10.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする
資料: 観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-2 外国人の延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	42	62	74	119	160
岩手県	46	65	77	106	132
宮城県	90	107	117	191	199
秋田県	28	36	42	60	67
山形県	32	37	48	76	88
福島県	37	42	44	56	79

※～10.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする 単位: 千人泊
10.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする
資料: 観光庁「平成27年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表IV-2-1 東北の夏まつりの開催概要

祭事名	開催地	来場者数				
		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
青森ねぶた祭	青森県青森市	282万人	285万人	259万人	269万人	276万人
盛岡さんさ踊り	岩手県盛岡市	122万人	130万人	137万人	139万人	126万人
仙台七夕まつり	宮城県仙台市	200万人	206万人	204万人	218万人	228万人
秋田竿燈まつり	秋田県秋田市	139万人	141万人	126万人	140万人	132万人
山形花笠まつり	山形県山形市	100万人	90万人	63万人	98万人	100万人
福島わらじまつり	福島県福島市	25万人	24万人	25万人	26万人	26万人

資料：各種資料をもとに（公財）日本交通公社作成

表IV-2-2 東北六魂祭、東北絆まつりの開催概要

	東北六魂祭						東北絆まつり
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
開催地	宮城県仙台市	岩手県盛岡市	福島県福島市	山形県山形市	秋田県秋田市	青森県青森市	宮城県仙台市
開催日程	7月16日(土) 17日(日)	5月26日(土) 27日(日)	6月1日(土) 2日(日)	5月24日(土) 25日(日)	5月30日(土) 31日(日)	6月25日(土) 26日(日)	6月10日(土) 11日(日)
来場者数	約37万人	約24万人	約25万人	約26万人	約26万人	約27万人	約45万人
経済効果	約103億円	約22億円	約37億円	約25億円	約31億円	約29億円	データなし

資料：各種資料をもとに（公財）日本交通公社作成

○東北六魂祭と東北絆まつり

11年に発生した東日本大震災の「鎮魂と復興」を祈り、東北6県の夏まつりを一堂に会して開催されてきた「東北六魂祭」であるが、16年度は青森県青森市を会場に、2日間（6月25、26日）で27万人が来場し、「跳（はねる）」をテーマに東北6県のまつりが集結した（表IV-2-2）。16年度は東京でもパレード（11月20日）が開催され、環状第2号線の新虎通りを練り歩いた。今回で東北6県を一巡しフィナーレを迎えたが、17年度からは後継イベントとして「東北絆まつり」を開催。1回目（6月10、11日）は仙台市で開催され、2日間で約45万人が来場した。

●訪日外国人旅行者（インバウンド）の誘客、商品開発

訪日外国人旅行者（インバウンド）の誘客や受入推進に向けて、官民を問わず取組みが活発化している。

○東北デスティネーション・キャンペーン

観光庁と日本政府観光局（JNTO）は、16年5月、「東北デスティネーション・キャンペーン」を開催した。この取組の一環として、「VISIT JAPAN EAST ASIA Travel Mart 2016」や、CNN



図IV-2-3 プロモーション動画（Autumn Colors in Tohoku, Japan）

デジタルメディアでの情報発信が実施されたほか、プロモーション動画「Autumn Colors in Tohoku, Japan=東北の秋」の制作も行われた（図IV-2-3）。

○『新しい東北』交流拡大モデル事業による交流人口拡大

復興庁では、『新しい東北』交流拡大モデル事業』に採択されたモデル事業13件において89の旅行商品が開発され、送客数4,431人、宿泊者数10,222人の成果があった。

○中国人観光客のマルチビザの対象拡大

外務省では、17年5月、東北3県を訪れる中国人観光客に12年7月から発給してきた数次査証（ビザ）の対象を、東北6県への旅行者に拡大した。最初の来日時に6県のいずれかで1泊以上すれば、その後は同じビザで来日でき、3年間の期限内は何度でも入国できることとなった。

○TOHOKU HIGHWAY BUS TICKETを発売

東北の高速バス事業者19社、東北観光推進機構などで構成する「高速バス東北共通インバウンドフリーパス協議会」では、訪日外国人観光客を対象に、東北域内の高速バス約60路線に4日間または7日間何度でも乗り降りできる「TOHOKU HIGHWAY BUS TICKET」を発売した。

○広域周遊ルート「日本の奥院・東北探訪ルート」の開発

東北観光推進機構は、広域連携による東北への外国人観光客誘致のため、16年6月に国土交通省の広域観光周遊ルート形成事業（※17年4月現在31コースが策定・公開）において、「日本の奥院・東北探訪ルート」として認定を受けて、ルート開発を行っている。マーケティング調査等に基づき主要6ルートと対応する6モデルコースを設定し、特設WEBサイトの公開、ルート上の16拠点地区での観光案内所の整備・標準化等を進めている（表IV-2-3）。

○観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議の発足

17年5月、既存の「訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会」を発展的に改組し、東北運輸局、東北地方整備局などの国関係機関や、東北6県・仙台市、経済団体、観光関係団体などによる「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」が発足した。東京オリンピック・パラリンピックが開催される20年（平成32年）に150万人泊とする目標実現に向けて、東北における観光行政のワンストップサービス化が期待されている。

表IV-2-3 日本の奥院・東北探訪ルートモデルコース

ルート	モデルコース	主な立寄地
東北周遊ルート	四季が織りなす東北の宝コース	蔵王温泉、山寺、日本三景・松島、平泉、 狛鼻溪舟下り、角館、白神山地、羽黒山
東北中央ルート	触って見える東北・自然文化体感コース	毛越寺、奥入瀬溪流、岩木山、角館、松島・瑞巖寺、塩竈神社
東北日本海ルート	日本海の美と伝統コース	奥入瀬溪流、弘前洋館めぐり、リゾートしらかみ、潮瀬崎のゴジラ岩、相馬樓、加茂水族館、村上の鮭文化
東北三陸ルート	三陸の恵みと復興コース	日本三景・松島、南三陸志津川温泉、南三陸キラキラ丼、気仙沼漁港、平泉、遠野ふるさと村、浄土ヶ浜、三陸鉄道北リアス線
北東北ルート	東北の歴史文化満喫コース	遠野ふるさと村、岩鑄鉄器館、津軽伝承工芸館、ねぶり流し館、角館きもの旅
南東北ルート	東北の食・酒堪能コース	宮泉酒造、もも狩り、高島ワイナリー、出羽三山神社精進料理、松島観覧亭、白石温麺

資料：東北観光推進機構ホームページより抜粋

②広域・市区町村レベル

●災害

○16年台風第10号による観光被害

16年8月、気象庁が統計を取り始めて以来初めて東北地方太平洋側に上陸した台風10号は、東北地方から北海道にかけて被害をもたらした。特に被害の大きかった岩手県では被害総額約1,440億円にのぼった。

中でも、被害が大きかった岩手県岩泉町では、秋の観光シーズンを前に、日本三大鍾乳洞の1つである龍泉洞が冠水（17年3月再開）、特産品であるヨーグルトを製造する岩泉乳業製造工場が操業停止（17年8月再開予定）、楽天イーグルス岩泉球場が損壊（18年以降再開予定）など、甚大な被害を受けた。久慈市でも、市街地が広範囲に冠水し、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の小道具を展示する「あまちゃんハウス」が浸水（17年4月再開）、展示品の大半が被害を受けるなど、大きな影響を受けた。

●交通

○仙台空港民営化の効果に期待

16年7月、仙台国際空港では、国管理空港の民営化第一号として、東急電鉄など7社で設立された「仙台国際空港株式会社」により運営が開始された。16年度の旅客数は316万人（前年比1.6%増）、タイガーエア台湾、スカイマークの2社が新規就航し、既存路線のピーチ・アビエーションも新路線の開設が予定されている。観光客の利便性向上や新たな観光ルートのきっかけとして期待されている。

○仙台空港を拠点とした周遊ルート開発

仙台空港を拠点とした周遊ルート開発も進められている。岩手県北バスは、17年1月、仙台空港と日本三景松島・奥松島、世界文化遺産平泉を結ぶガイド付き直行バス「仙台空港・松島・平泉線」、「仙台空港・松島／奥松島観光周遊バス」の実証運行を開始。今後、フリーWi-Fiや外国語ガイドの導入を通じて訪日外国人旅行者の取込みも目指す。

●市町村の連携による観光推進の取組み

○「地域連携DMO」の立ち上げの動きの活発化

16～17年初頭にかけて、東北各地で日本版DMO登録候補法人の設立が相次いだ。特に、複数市町村による「地域連携DMO」が多く設立されて、注目度が高い（表IV-2-4）。

16年4月、公益財団法人さんりく基金内に、「三陸DMOセンター」が開所した。旅行会社代表を観光プロデューサーに迎え、三陸ブランドの強化や教育旅行の拡大を狙う。

同年同月、大館市と北秋田市、小坂町は「秋田犬ツーリズム」を設立した。大館市が忠犬ハチ公の生まれ故郷であることから、「秋田犬」をキーワードに情報発信し、外国人旅行者などの誘客を狙っている。

17年4月、石巻市、東松島市、女川町の広域観光連携のかじ取り役を担う「一般社団法人石巻圏観光推進機構」が発足した。石巻地方の資源を活かした訪日外国人誘客やサイクルツーリズムなどに取り組んでいる。

表IV-2-4 新たに設立・開所した地域連携DMO、DMC機能を担う法人等（平成29年5月12日現在）

設立	法人名	対象区域	所在地
16.4 (開所)	(公財)さんりく基金 三陸DMOセンター	宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、野田村、洋野町	岩手県盛岡市
17.4	(一社)石巻圏観光推進機構	石巻市、東松島市、女川町	宮城県石巻市
17.3	(一社)宮城インパウンドDMO	白石市、名取市、角田市、岩沼市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亶理町、山元町	宮城県丸森町
16.4	(一社)秋田犬ツーリズム	大館市、北秋田市、小坂町	秋田県大館市
17.3	おもてなし山形(株)	山形市、上山市、天童市	山形県山形市

資料：各種資料をもとに(公財)日本交通公社作成

○3市連携による「世界に誇る『樹氷』観光地宣言」

青森市、北秋田市、山形市の3市は、17年2月、「国際樹氷サミットin山形蔵王（蔵王温泉）」を開催、オーストラリア、メキシコ、台湾、韓国などの海外旅行エージェンツも招き約100人が出席した。「樹氷」を軸とした広域連携で、「世界に誇る『樹氷』観光地宣言」を採択し、環境に配慮した持続可能な観光開発とまちづくりを進め国内外からの誘客を進める。

●観光コンテンツの開発

○ゲームを活用した誘客が効果

スマートフォンや携帯端末のゲームを活用した誘客が各地で行われている。16年11月、Niantic, Inc.は東日本大震災の被災地である宮城県、岩手県、福島県と、熊本地震で被害を受けた熊本県と連携し、「ポケモンGO」のゲーム上のキャラクターの入手確率を通常よりも高く設定した。宮城県石巻市では、2日間で約10万人が来訪し、20億円の経済効果があったと発表された。マニア向けから広く一般に効果を生じた取組として注目される。

(吉谷地裕)